

令和3年度 宮古教育事務所「特別活動〔学級活動(2)(3)〕学習指導案」様式・作成のポイント

- 学級活動(2) 日常生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全
- 学級活動(3) 一人一人のキャリア形成と自己実現

学級活動の内容(2)、(3)の指導案では、題材に関わる児童(生徒)の実態を明らかにし、教師の指導観などについてまとめ、児童(生徒)が自己の課題として真剣に捉え、話し合いを生かして具体的な目標や実践方法などを「意思決定」できるように展開を工夫する。指導案の内容は、事前、本時、事後の一連の学習過程を示す。

第〇学年〇組 学級活動指導案

Point 作成に当たっては以下の資料を参考にする。
 (1)『学習指導要領解説』(小、中特別活動編)
 (2)『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料(特別活動)』
 (3)『みんなでよりよい学級・学校生活をつくる特別活動』(文科省国立教育政策研究所)

令和 年 月 日()校時
 年 組 名
 指導者:

1 題材 「
 学級活動の内容() ※ 小学校例:学級活動(2)イ よりよい人間関係の形成

Point 「題材」とは、教師が学級活動(2)、(3)で取り上げたいことを、あらかじめ年間指導計画に即して設定したものを「題材」と称する。
 ・学級活動の内容(2)では、日常生活や学習への適応、自己の成長、健康安全に関する課題等
 ・学級活動の内容(3)では、現在及び将来を見通した社会生活や主体的な学習態度、社会参画に関する課題等

2 題材について
 (1) 児童(生徒)の実態

学級活動(2)(3)は「題材」
 学級活動(1)は「議題」

Point 題材に関わる普段の現状を、児童(生徒)の学級生活における観察や題材に関わるアンケート調査を活用し、具体的に捉える。(題材によっては保護者へのアンケート調査も有効である。)
 ※児童(生徒)が自己の課題として真剣に捉え、目標や方法などを「意思決定」できるようにアンケート結果を表やグラフで可視化するなど工夫し、実態把握を事前の指導や本時の導入に生かす。

(2) 題材設定の理由

Point 学級生活における児童の実態から、この題材を取り上げる必要性など、教師の題材観、指導観についてまとめる。特別活動で育てる資質・能力の3つの重要な視点「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」との関連を意識しながら記述する。
 必要に応じて、各教科、道徳及び総合的な学習の時間との関連を図った計画的指導や学年段階、発達の段階に即した系統的な指導に関わる配慮事項などについても記述する。

3 第〇学年及び第〇学年の学級活動(△)の評価規準

【例】よりよい生活を築くための知識・技能	【例】集団や社会の形成者としての思考・判断・表現	【例】主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度
<p>Point ※上記の【例】で示した観点は、特別活動における「評価の観点及びその趣旨」をもとにした例。 ※ 学習指導要領に準じて、各学校で定めた「評価の観点」及び「評価規準」を記載する。各学校で定めていないときには、『学習指導要領解説(小、中特別活動編)』や『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料(特別活動)』第2編の例示を参照すること。</p>		

4 事前の指導 <記入例>

学級活動(2)(3)は「事前の指導」
 学級活動(1)は「事前の活動」

日時	児童の活動	指導上の留意点	◎目指す児童の姿【観点】<評価方法>
〇月〇日 帰りの会	・アンケートに記入する。	・題材に関わる内容の生活を振り返る時間を設け、課題への意識を高められるようにする。 ・アンケート調査等を実施し、わかりやすく表やグラフにまとめ、実態をつかむようにする。	◎(題材〇〇〇)に関する自己の生活を進んで振り返ろうとしている。 【主体的態度】 <アンケート>

5 学校で重点的に育成を目指す「資質・能力」と本学級活動での学びの姿との関連

例 ①自ら考える力	題材について自らの生活を振り返り、改善へ向けて思考している姿	事前の指導、展開、事後の指導
例 ②伝える力	自分で考えたことを、相手に工夫して伝える姿	展開、事後の指導
例 ③練り合い創る力	友達の考えを取り入れたり資料を多面的に取り組み、思考している姿	事前の指導、展開、事後の指導

6 本時の展開

(1) 本時のねらい

Point 自他の関わりの中で、個人の課題を踏まえ、どのような「意思決定」ができるようにしたいのかの指導のねらいを端的に記述する。
【例】〇〇〇について理解し(目標を持ち)、自分なりのめあてや方法を決め、□□□ができるようにする。

(2) ねらい達成のための工夫〔授業仮説〕

Point 本時の授業のどこで、どのような指導の在り方や方法を提案しようとしているのか簡潔にまとめる。
【例】 〇〇〇において、□□□すれば、△△△になるであろう。
 場・内容の限定 方法・手立て 期待される効果(ねらいめざす子供の姿)

(2) 展開 【記入例】

・学級活動(2)(3)は「児童(生徒)の活動」
 ・学級活動(1)は「話し合いの順序」

	児童(生徒)の活動	指導上の留意点(教師の手立て)	◎目指す児童(生徒)の姿 【観点】<評価方法>
導入 5分 つかむ	1 事前のアンケート結果を見て気付いたことを話し合い、〇〇〇〇〇〇についての問題点を考える。 2 めあての確認 めあて【例】:〇〇〇について、△△△するために、自分ならどうしたらよいか考えよう。 〇〇〇に向けて、自分が実践することを決めよう。	・〇〇〇に対する学級全体の課題を確認し、課題解決への必要感を高める。 ・課題をつかませて、めあてにつなげる。	「充分満足できる活動の状況」を的確に見取るため、具体的な児童生徒の姿を具体的に示します。
展開 さぐる 10分 見つける	3 〇〇〇について、原因や要因を考える 4 〇〇〇についての大切さや影響等について知る 5 〇〇〇を改善する方法についてグループで話し合う 6 グループで考えたことを発表する	Point ・本時の学習の見通しと意思決定すべきことが分かるように、学習のプロセスを説明する。 Point ・ペアでの話し合い等から多様な意見を引き出して、簡潔に板書(可視化)するように努める ・「発問」や、懸念される影響等は予想できるため、事前に黒板に張り出す文言を準備して貼り付けるなど、スムーズな展開を心掛け、次の展開の時間を確保する。 Point ・教師はファシリテーターとなり、話し合いを深める助言等に努める ・他のグループの考えと比較、関連するなど意思決定に向けての考えが深める重要な活動である。短冊やボードの活用、板書での可視化を行うようにする。	◎〇〇〇に関する諸課題の改善に向けて取り組むことの意義を理解している。【知識・技能】<観察・発言>
終末 決める 10分	7 話し合ったことを参考にして、自分のめあてや実践方法を決める。【意思決定】 8 先生の話	・机間指導を行い、必要に応じて具体性のあるめあてや実践方法が設定できるように助言を行う。 終末の助言では、意思決定したことへの価値付けや、今後の実践に向けての意欲付け等について簡潔に述べる。また、前回の話し合いと比べての変容について伝え、集団としての高まり等を賞賛する。	◎〇〇〇に関する諸課題を認識し、解決方法などについて話し合い、自分に合ったよりよい解決方法を意思決定し、実践している。【思考・判断・表現】<ワークシート、観察>

重要 Point 【意思決定】



学級での「話し合い」を通して、共通する課題を見だし、多様な視点から解決方法を見つけ、自己の具体的な実践課題を決めて、粘り強く努力します。本時において、児童(生徒)一人一人が自分に合った具体的な実践目標を「意思決定」することができるようにするとともに、児童(生徒)が自ら決めたことを実践して振り返り、自ら改善するための事後指導が重要です。

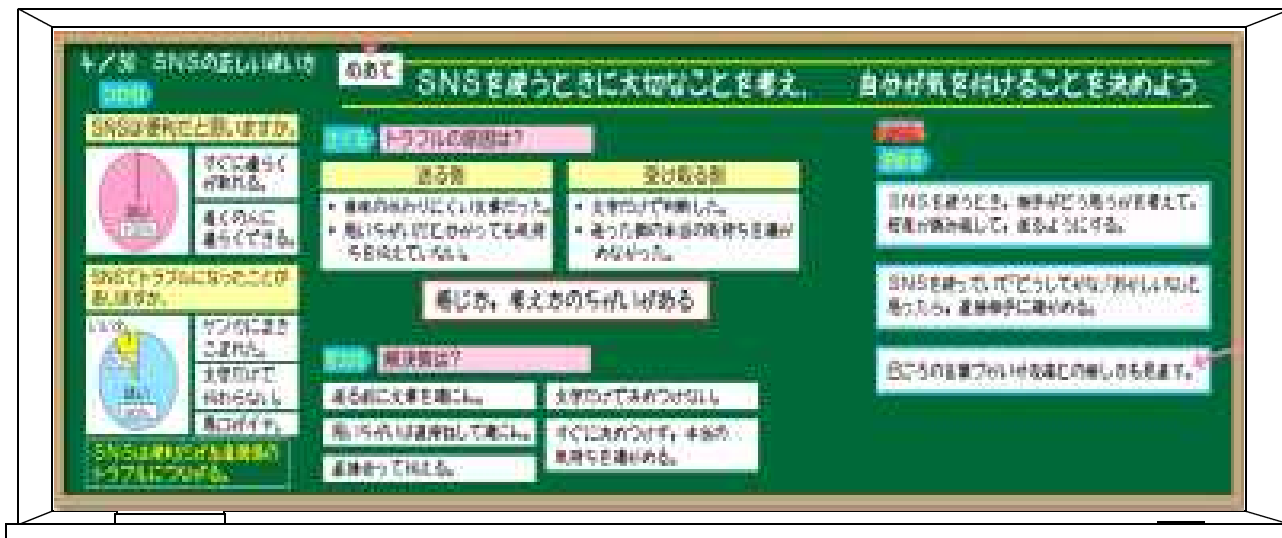
※ 児童(生徒)の意思決定内容は、自己評価できることを前提に、具体的な取組方法や振り返りの時期(期間)などを、ワークシート(がんばりカード、キャリア・パスポート)に記入させ、事前、本時、事後の一連の指導として捉える。

7 事後の指導

学級活動(2)(3)は「事後の指導」
学級活動(1)は「事後の活動」
(記入例)

日時	児童の活動	指導上の留意点	◎目指す児童の姿 【観点】<評価方法>
○月○日 帰りの会等 定期的に 振り返り	<ul style="list-style-type: none"> 自分の立てためあてや取組などについて振り返る。 友達同士で取組を確認し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> 事後に定期的に振り返る機会を設定し、実践化に向けて継続した取組になるように助言する。 友達同士で取組を確認し合う場を設け、お互いのがんばりを励まし合うことにより、実践の継続を図るようにする。 	<p>◎自己の生活をよりよくするために、見通しをもった振り返ったりしながら、意欲的に課題解決に取り組もうとしている。</p> <p>【主体的態度】 <振り返りカード、観察></p>

8 板書計画 【実際に板書した写真を添付してもよい。】(ICT機器の活用について等)



参考事例 : 『みんなでよりよい学級・学校生活をつくる特別活動』<文科省国立教育政策研究所>より